

市川のみまち

地名の由来

No.27



明治13年の迅速図に江戸川放水路(現江戸川)を書き込んだもの。大和田の集落は放水路の川底になった

「ワダ」とは、湾曲したところをいいます。それに

「大」の字がついたもので、大きく湾曲した部分が「オオワダ」と呼ばれ、「大和田」の文字が当てられたのです。

この地域は、天正年間(一五七三〜一五九二)、小田原を根拠地として広く関東に勢力を伸ばしていた北条氏の家臣、松原淡路守永正によって治められていました。

永正は、この地に薬師如来を本尊とした一寺を建立し、地名を山号に、そして自らの名をとって「大和田山永正寺」と名付けました。この永正寺の本尊薬師如来像は、聖徳太子が自ら彫られたものと伝えられています。

その後、貞享年間(一六八四〜一六八八)に永正寺は廃寺となり、本尊は本行徳の長松禅寺に移されました。この長松禅寺も、永正が天文二十三年(一五五四)に

大きく湾曲したところ

大和田・東大和田

建立したものです。

明治二十二年、町村制の実施で大和田村は行徳町に属することになりました。

その後、明治時代の末になると、たびたび起こる利根川の洪水対策として、利根川本流の水量を江戸川へ放

流することが考えられてきました。そして、明治四十三年に起こった利根川の大洪水をきっかけに、このことが具体化し、新たに江戸川下流に放水路をつくって、流量を緩和することになりました。そこで選ばれたのが、江戸川と東京湾の最も接近した、大和田から妙典にかけての地域だったのです。

この工事では、大和田の集落の中心部がほとんど川底になるため、住民は立ち退きが命じられて甲大神社あたりに移転しました。このように、江戸川放水路の開削にあたっては、大和田の人々の大きな犠牲があったのです。

昭和三十年、大和田地区を含む行徳町が、市川市に合併しました。そして、同四十三年に住居表示が実施され、大和田一〜五丁目と、稲荷木の一部を含めた東大和田一・二丁目が生じました。その後、昭和六十年には、大和田一丁目に文化の街市川市にふさわしい文化会館がオープンしました。今回は「平田」を予定しています。



「北方」(四月十五日号)の記事中、「北の守り神の子(鼠)が、「子之神社」として祭られている」とあるのは誤りです。ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

(社会教育指導員

綿貫喜郎)